

都市計画道路「見晴通」の概要

■経過

留萌市都市計画マスタープランに掲げた「地域資源を結ぶために整備が必要な路線」の実現を目的に、昨年より都市計画道路決定に向けた「住民説明会」を行ってきました。
事業を進めるうえで「見晴通(仮称)」の必要性についてご理解をいたいただくために、改めて概要を説明します。

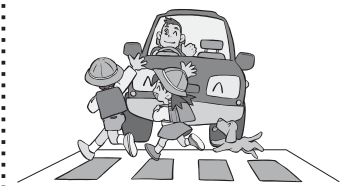
■目的

留萌市の南部地区(国道231号線の南側に位置する見晴町、沖見町、野本町、千鳥町など)における道路の現状や課題として、(一)国道以外に都市計画道路がなく、道路整備密度が極めて

■整備効果

① 交通の円滑化と安全性の向上

南部地区において、市内循環道路ネットワークを形成することにより、生活道路に流入していた通過交通が少なくなるため、地域全体の交通の円滑化が図られ、安全性が向上します。



② 公共交通機関の充実

バス循環経路の運行体系が大きく改善され、市街地商店街への買い物や市立病院への通院、中高生の通学の利便性が向上します。



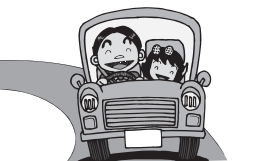
③ 災害に強い街づくりの促進

沿線は留萌市のベッドタウンとなる「日東団地」「自由ヶ丘団地」などが形成されていることから、災害、救急時における輸送路や緊急車両の「通行路」や「防火帯」としての機能を確保するなど、災害に強いまちづくりを推進します。



④ 高規格道路への接続向上

「見晴通」の整備により、特に南部地区から「深川留萌自動車道」の終点「留萌インターチェンジ」への接続が容易になります。このことで都市間の広域的な交流、連携を支える高速ネットワークが構築されます。



■内容

低い。(二)渋滞を避ける車が生活道路に流入し交通量を増大させている。(三)日東団地への進入路が1本で狭いため避難路整備が必要である。(四)公共交通機関の経路が非効率である。などがあげられます。
これらを解決し、円滑な都市活動や良好な都市環境を確保するためには、主要幹線道路(国道、道道)に接続し

「市内循環機能」を有する道路ネットワークを形成することが必要です。
また、平成21年度に策定した「留萌地域公共交通総合連携計画」の基本方針の中で、公共交通空白地の解消が課題として掲げられており、市内循環機能をもつ都市計画道路を配置して円滑な公共交通の構築を図ることとされています。

「市内循環機能」を担う幹線道路

見晴通について

■断面構成

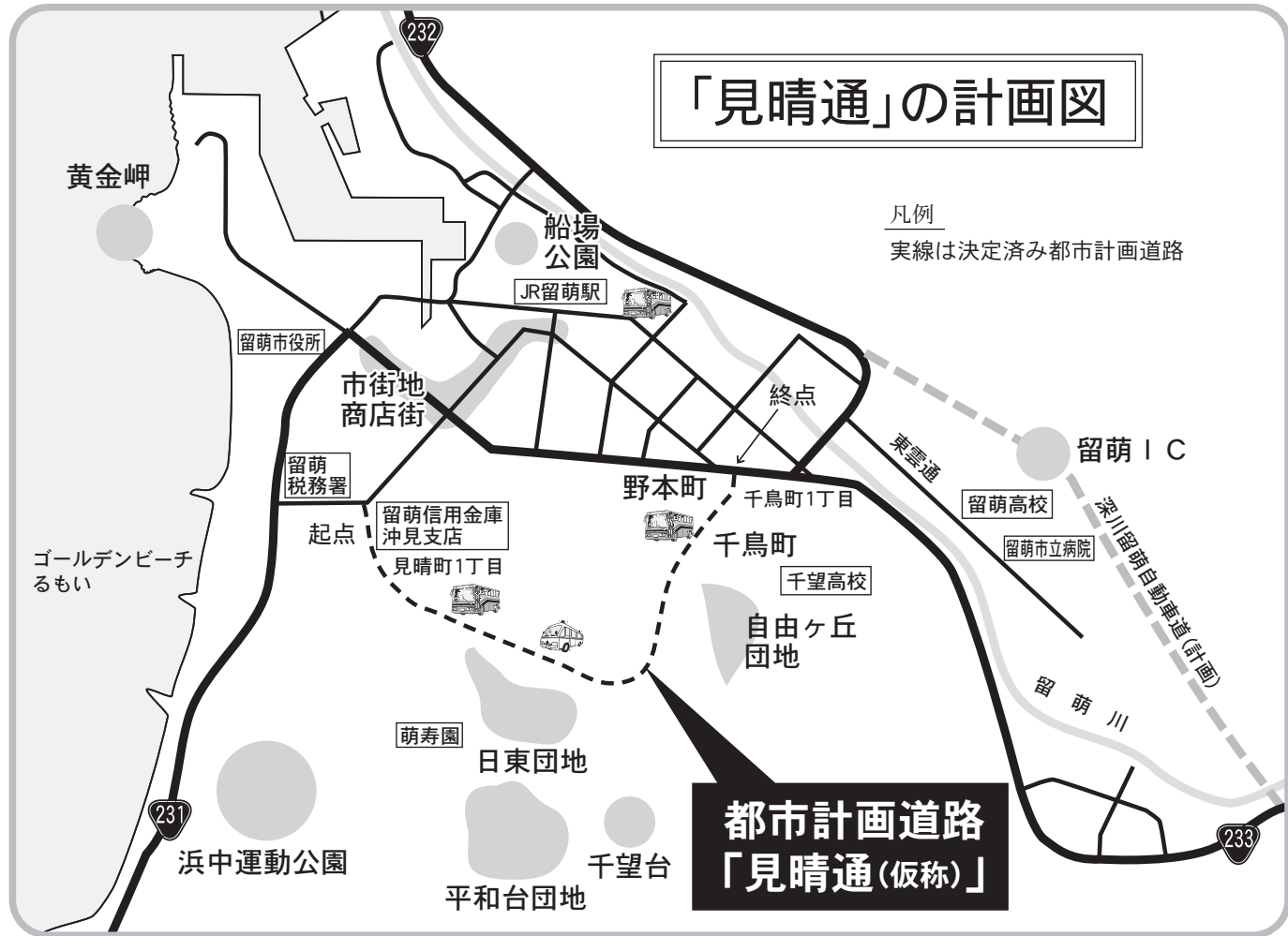
都市計画道路「見晴通」は、延長2,800m、幅員16m、2車線の主要幹線道路です。地域内で発生する交通量を円滑に通過させる道路規格で、環境そして防災を含めた総合的な空間を確保するために16mの幅員としました。道路幅員は、歩道を両側に3・5mずつ確保し、車道は停車帯を含めて9mの幅を確保します。
歩道部は、歩行者や自転車が行き止まる部分と植樹帯から構成されています。

同じ規格の道路は国道232号線から市立病院に向かう都市計画道路「東雲通」があります。

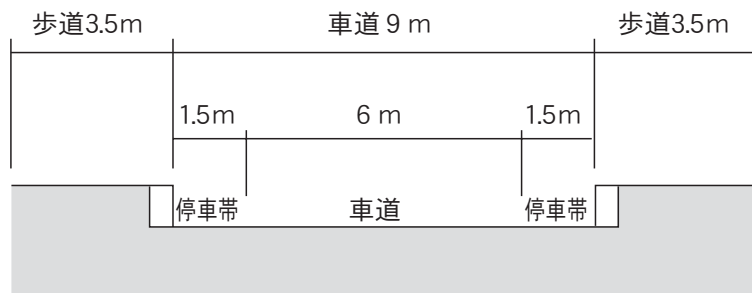
これからの予定

昨年に引き続き、「見晴通」の説明を重ね、この路線に対する市民の皆さんの意見を求めるため都市計画案の「公告、縦覧」を行い、その結果について都市計画審議会に諮問し、本年中の都市計画決定を予定しています。

「見晴通」の計画図



道路定規(幅員16m)



■都市計画で定める内容

名称	起点	終点
見晴通	留萌市見晴町1丁目	留萌市千鳥町1丁目
延長	幅員	車線数
2,800m	16m	2車線

「見晴通」についてのご意見とお問い合わせは
市・都市整備課 ☎42・2010